
ぼくがつくった愛のうた ～二島杯歴史～

今～平成18年10月22日

「二人の愛がある限り、地球は回り続ける」

チューリップの名曲に乗せまして二島杯を歌います。

『皆様の支持がある限り、大会は開催し続ける』・18年10月22日第11回二島杯は、オープニングセレモニーから、試合、打ち上げまで、無事終了いたしました。

全員にドリンクを配ってくれた足長おじさん、特別賞の近江米を提供いただいた越前さん、再会を期待して最下位賞なんて洒落た青年協会さん、大会運営のガット張りの店ネットインさんに、設営・進行・運営の二島スタッフの皆さん、そして参加者の皆様、お疲れ様でした。お楽しみいただけましたか？

テーマは「レオマ」～レジャーはお代官様に任せろ～でしたが、お代官様は、個人的にも一日皆様と楽しく過ごすことができました。至らぬ点多々あったとは存じますが、大会後皆様から多数の支持の声を頂戴しまして、もっと楽しい第12回大会を企画してみたい・・・なんて思っています。

次のテーマは、サプライズは、などと考える時間がお代官様にとっての楽しみですね。そして、皆様が楽しんでいただけることが、最大の幸福かもしれません。

いつもの場所で、いつものメンバー、いつものシャトルで、楽しい大会を創りたいことから始めた二島杯。その軌跡・・・いや、奇跡を本項で綴ってみたいと思います。

歴史～開催日、テーマ、優勝組

| | | | |
|------|-----------|----------------|----------|
| 第1回 | 13年9月15日 | 「素人運営」 | ゴリ組 |
| 第2回 | 14年4月14日 | 「7点5セット」 | 悪代官組 |
| 第3回 | 14年9月15日 | 「尻カッチン」 | ケンタロウ組 |
| 第4回 | 15年4月20日 | 「ユーリー杯」 | 福岡のアネゴ組 |
| 第5回 | 15年9月23日 | 「60分5本勝負」 | 悪代官組 |
| 第6回 | 16年4月25日 | 「感謝」 | 越後屋組 |
| 第7回 | 16年9月23日 | 「チャレンジ」 | えちぜん組 |
| 第8回 | 17年3月27日 | 「マドンナを探せ」 | 会長組 |
| 第9回 | 17年9月25日 | 「ヘッドハンティング」 | 王子組 |
| 第10回 | 18年3月21日 | 「祈念」 | ゴリ組 |
| 第11回 | 18年10月22日 | 「レオマ」 | あぶさん組 |
| 第12回 | 19年3月21日 | 「長いものには～巻かれる？」 | ゴリ組 |
| 第13回 | 19年9月30日 | 「Come on!」 | ゴリ組 |
| 第14回 | 20年3月20日 | 「Victory」 | あぶさん組 |
| 第15回 | 20年9月28日 | 「Festival～二島祭」 | マッスル組 |
| 第16回 | 21年3月08日 | 「リズム」 | キューティクル組 |
| 第17回 | 21年9月22日 | 「リプレゼント」 | えちぜん組 |
| 第18回 | 22年2月28日 | 「伝承」 | ピッコロ組 |

第19回 22年10月11日 「ディスカバー」スコッチ組

第20回 23年2月27日 「FIN」ひとし組

コンスタントに年に2回の開催を継続しています。



「とてもありふれた言葉だから 笑ってごまかしたけど
心の中でもう一度言おう 世界で一番ステキだと
今まできみが愛してた 小さな木彫りの人形も
幼い頃のオモチャの箱に そっとしまっしまいなさい」

誕生～第1回・第2回

第1回は、6チームによる団体戦で、チーム編成は抽選、15点3セットマッチで参加者は40名。

あちこちの大会に参加して、負けてばかりのお代官様としては、チームで楽しむことと、イベント性が強くて、門真ならではの大会を開催したいと思い、開業して間もないネットインを捕まえて、採算度外視の参加者の喜ぶ賞品を出しなさいと脅し、門真市青年協会から資金を引っ張り、足長おじさんの賛同を得て賞品協力いただきました。

また、自分の試合が終わっても帰らないように、門真の3大名所の名前を取って、薫蓋樟(くんがい賞)、茨田堤賞、バッテリー賞なんて名を付けた個人賞を渡し、地元優先の学歴ルールを構築し、対戦組合せも話し合いで決めることにしました。

反省点は、チーム編成抽選に手間取った上、強い人ばかりの片寄った編成になってしまったことで最初から優勝するチームが予想できたことと、時間読みができなかったことの2点。まあ、素人運営ですからね。

第2回は、7点5セットという新ルールが採用されるとの噂で、いち早くこれに飛びつきました。参加者は51名。

チーム編成も抽選をやめて、主催者側で編成しました。この編成会議を、門真市出身の総理大臣の名前にちなんで「幣原会議」なんて名付けましたが、新ルールと共に定着することはありませんでした。

反省点は、チーム編成抽選した本人のチームが優勝したことと、時間管理。やっぱ素人運営ですから。

タイムテーブル～第3回

「試行錯誤を続け開催している二島杯、皆様からの要望にお答えして」、9月15日に決定しました。過去二回の反省点を踏まえて、今回のテーマは「尻(けつ)カッチン！」業界用語で、終了時間をきっちりするという意味で、いつもルーズな我々を戒めるにはうってつけのキーワードだと思っています。..なんて案内を出しました。

この回は、終了時間を決めて、時間と共に、ノーサイドの笛を吹きました。参加者は50名。

この回のチーム編成抽選は、この人が練習に来ると練習参加者が倍増する効果のある「福の神さん」と、当時打ち上げと言え、なぜか焼肉と決まっていたのですが、そのお店のお代官様好みのアルバイトの娘「肉の神さん」にお願いしました。

当時のチーム名は、健太郎・アクロバット・クラッシュ・ゴリ・ぼく・越後屋・小猿で、本当は、ウサギさんチームとかキリンさんチームなんて可愛い名前で作ったのですが、キャプテンの顔を見て、不可能を知り、こんなチーム名が現在まで続いています。ちなみに代官様のキャプテンのチーム名は、小猿で、ゴリから一人だけ可愛いとクレームが出ました。

この回の優勝は、ケンタロウチームで、キャプテン曰く、「談合力の勝利です。」確かに、普段は建設業のお仕事に従事されていますもんね。

反省点は、終了時間だけを決めることが、周知されなかったみたいで、通常的生活では、開始時間を基準としますから、なんとなく皆様から受け入れられなかったのでしょうか。



女性キャプテン～第4回

勢いだけで続けてきた二島杯、なんと第4回になってしまいました。今回は、我々がアイドル、二十歳前のユウリをスタッフに迎え、新しい大会を4月20日、企画することに相成りました。

世界レベルの大会は、ユーパー杯にトーマス杯。二島杯もこれらの大会に対抗し、ユウリー杯と名付けてみました。・・・なんて案内を出しました。

女性の世界大会がユーパー杯だから、それにあやかって7名の女性キャプテンを指名しました。ただ、女性同士での話し合いは拒否されたので、話し合い担当の男性を配置して、対戦組合せを決めました。参加者59名で、4人で3セットを戦うカルテットなんてルールを作って、多人数に対処しました。

この大会のもう一つの焦点は、今まで二島を支えてきてくれたアネゴが、ご主人の業務都合により、故郷の福岡に戻ることが決まり、この日が、アネゴにとって最後の二島になったことです。

結果は、4勝3敗のチームが3つ。二島ルールの学歴も同じで、最後のキャプテンの年齢が高い方という決め手で、アネゴのチームが優勝しました。

最後に優勝のコメントを求めたら、アネゴの目に涙が・・・感動のラストシーンで終わった第4回。

いつでも、ラケット持って帰ってきて下さいよ。ここが、あなたの故郷ですからね。



飛び込み禁止～第5回

この大会から、15点1セットが5つというルールが確立しました。参加者49名。

この時期、お代官様が個人的に悩んでいたのが、怪我・・・お代官様のプレーは、決め手が無く、スマッシュも緩いか、遅いか、早くないかで、レシーブが好きで、とりあえず一度つないで相手のミスを待つことに重きを置いているのですが、フットワークが苦手で、つい飛び込んでしまいます。

確かに場内から拍手が沸き起こるのが嬉しくて、ついつい・・・飛んでしまいますが、実は、これが原因で、半年間、大好きなバドミントンができなくなりました。けれど、体育館の鍵を開けなくてはならないので、皆さんの羽根を打つ楽しそうな姿を見て、左練習を始めました。

ドロップとスマッシュは何とか打てますが、クリアがなかなか難しく、などと考えながら、初心者の頃を思い出しました。結論は、飛び込まなければ、右手で打てる・・・なんて、誰もが思いつく当たり前に行き着き、大会時は競技審判委員長のクラッシュ君に、一般上の注意として、「健康管理は各人で行うこと。特に飛び込みなどは慎むこと。」と言わせています。

ホント、長く楽しく競技を続けたいなら、怪我だけは避けたいですね。

「飛び込み禁止」これは、自分に対する戒めですね。この大会は、怪我から復帰したお代官様のチームが二度目の優勝。

記念大会を楽しく飾ることができました。



サプライズ～第6回

テーマは「感謝」。赤のTシャツを作成し、みんなで着用して、体育館中を真っ赤に染めました。

この回の前に、某建協より原稿依頼を受けて(別項参照)高松在住時の師匠のことを書くに当たって、奥様の許可を得ようと数年振りに連絡して、原稿と共に、二島杯の案内を郵送したところ、息子さんが、高松のバドミントンショップに就職して間もない時期で、大会に興味を示し参加してくれました。

しかも、前年度まで関西の大学リーグでバドミントンをしていた「つわもの」で、スキルの高さに会場内がびっくり。同じ大学リーグ出身者たちからサプライズの喝采を浴びました。

「イベントは、観客の皆さんを驚かせてナンボでんがな〜！」などと、言いながら、高松からわざわざ来てくれた師匠の奥様と息子さんに感謝です。参加者は55名。当然、参加いただいた皆様へ感謝。

そして、優勝キャプテンは、越後屋。

この大会をここまで成長させてくれた越後屋に感謝ですね。



社会人リーグに〜第7回

いつもの場所で、いつものシャトル。素人運営の大会も、なんと7回目。

今回のテーマは、『チャレンジ』…何にチャレンジするかは、勝利？スキルアップ？次のオリンピック出場？…皆様それぞれ胸のうちにあることでしょう。

おなじみ二島杯は、体育館の使用許可の関係上、他の大会がひしめく、9月23日(木)の祝日で確定してしまいました。今回は、6チーム総当りによる15点ゲーム(セティングあり)5つの団体戦。チーム編成は主催者側。組合せはキャプテン同士の話し合いで決定。順位決定基準はいつもの二島ルール。午前2試合、午後3試合で完全決着までとします。募集人数は、48名〜60名。他の大会にチャレンジ…してみよっかな〜。

こんな案内で募集した第7回は、参加者48名で苦戦しました。

テーマについても、苦戦…会長に相談したところ、来期から社会人リーグに挑戦するのだから、会員一丸となって進んでいく気持ちの表明として、チャレンジ。

会長も、自分自身が、年齢や体力にチャレンジしてバドミントンを続けているから、なんて話から、テーマが確定しました。

二島杯は、表面上お代官様がプロデュースしているように見えますが、体育館の使用許可、土曜以外の曜日なら、他のクラブから場所を譲っていただき、地元の子供会から学校行事までを確認して、了解を得てやっと開催に漕ぎ着けることができるのです。

こんな地道な作業を黙々としてくれる会長らしきテーマが出てきたので、ボクシング等のチャンピオンカラーの赤に対しチャレンジャーの色としての青、ブルーのTシャツを作成し、大会の企画、運営にチャレンジしました。



マドンナ～第8回

二島のマドンナ、5月に結婚。新居は東京。おめでたい話ですが、男性軍からは、次のマドンナは誰・・・なんて声が、チラホラと。今回のテーマは、次回マドンナ争奪。題して『第8回二島杯、マドンナを探せ！』

マドンナは、アイドル？自己主張？集金能力、体力、それとも・・・年齢？今回は、二島の顔？というべきマドンナ筆頭に、いつものキャプテンを決めて、主催者側で6チームに振り分けます。(中略)さてさて、新しいマドンナが見つかるのでしょうか。

こんな案内で募集した第8回は60名参加の大盛況となりました。

この回から、10名のチームが6つの60名募集が定着しました。

なぜか二島を気に入ってくれた、サウスポーのマドンナですが、人見知りが激しく、慣れない人とはおしゃべりしなかったはずだったのに、合宿で弾けてしまい宴会の席で、お酒の力かも知れませんが、結婚宣言まで飛び出しました。マドンナ狙いで来ていた会員も、お代官様を含めて多数居ましたが、悔しいけれど、二島杯で祝ってしまえ～という勢いで、テーマが確定してしまいました。しかも、それまで春の大会は4月だったのを、3月に動かし、マドンナのチームには、会長から、いつも慕っていた師匠まで配置した結果、予定通りこのチームが優勝してしまいました。

最後に、今までほとんどしゃべらず、羽根ばかり打っていたマドンナから大会に参加した皆さんにお礼の言葉が・・・現在、東京都足立区在住。

いつでも帰って来いよ！一児の母となった今でも、やっぱあなたが、みんなのマドンナですから。



社会人デビュー～第9回

二島クラブ、今年度より大阪社会人リーグにデビュー！ゴリさん、エロさん、悪代官さん、いつものメンバーで上期リーグ成績は3勝1敗。しかも、決勝リーグに進出！

こうなりやもっと・・・楽しむぞ！いや、上を目指すべき？

今回の二島杯のテーマは『ヘッドハンティング』

楽しく上を目指すための登録メンバーの募集(?)を兼ねて、いつもの大会を開催したいと思えます。男子だけやおまへんで、女子の部だってウエルカム!

(中略)ヘッドハンティング・・・されませんか。

こんな案内で募集した第9回の参加者は61名。

この回、最も苦しんだのは、当初9月23日で計画して、案内まで配布し参加者募集を開始したのに、会場都合(小学校の体育館ですので、地域の行事を優先するため、突如使えなくなる場合があります。)により、25日に変更となりました。

社会人デビュー後、初の大会で、社会人登録の面子がキャプテンで、個人賞の選出基準も、チームメイトに推薦したい人というものにして、大会運営も、10名編成の6チーム総当りで、スタッフ各人の役割分担もマニュアル化され、安定していたはずが、ドタバタの大騒ぎ。

ところが、会長の日頃の行いの良さで、同じ場所を使っている他のサークルからのご支援、ご理解を得て何とかこの日を確保できたのです。

また、こちらの都合による変更にもかかわらず、定員越えの61名が集まっていただき、ヘッドハンティングにも力が入りました。

ドタキャン～第10回

「楽しんでこいよ～！」これが、我が会長の口癖。

飛び込み禁止、話し合い方式に学歴決着。そして、毎回テーマを決めて開催する二島杯も、なんと今回で10回目を迎えてしまいました。

今回のテーマは『祈念』・・・記念すべき第10回であると共に、参加いただく皆様方が、楽しんで帰ってくれることを祈って念じます。(中略)さてさて、記念すべきこの大会、どんなサプライズが起こるのでしょうか・・・祈念してみませんか?

こんな案内の第10回もドタバタ。

いつもチーム編成の抽選を終えて、掲示物を仕上げて大会当日は、運営とプレーに集中したいと思っていますが、最大の敵は、土壇場のキャンセル・・・いわゆるドタキャンです。

会長も含めて、手作りの大会ですから、チーム編成後のドタキャンがあれば、各チームの均衡は取れなくなり、勝敗にも大きく影響を及ぼします。

趣味のバドミントンを楽しむに当たって、社会人である限り、急迫性のある仕事と重なる場合があることは、重々承知していますが、二島杯だけはなんとか出ていただけないのでしょうか。この回のドタキャンは、別の大会での怪我、身内の不幸・・・やむを得ないとは思いますが、あまりにこれが重なったもので、ホント気が遠くなりました。

参加者数も当初57名で編成したのに、当日は53名?54名?記録が残ってないので良くわかりません。いや、これがサプライズだったのかも知れません。

大会も回を重ねるたびに色々な経験をさせていただきますが、怪我のドタキャンで当日見学しに来てくれる人や、代わりを探してくれる人や、日を改めてお詫びに来てくれる人は、次回はずひ参加いただきたいと思うのですが・・・昔の友人とかの印籠を振りかざし、仕事の関係とかで都合が悪くなつて受付時間に現れないので、心配した会長が電話した結果「忘れてました。仕事で都合つきません。」なんていう人とは、二度とお付き合いしたくありませんね。

いずれの大会であれ、主催者の立場を経験した者としてお願いしたいのは、ドタキャンだけは、やめて下さい。もし、都合がつかない可能性があるのなら、最初から申し込みはやめるべきで、最悪でもピンチヒッターを立てるだけの余裕を見せて下さい。これが、私の祈念することですね。



レオマ～第11回

レジャーは、お代官様に、任せろ…任せて良かったのかな？

今回の参加者は、60名。最後に、怪我によるキャンセルがあったものの、しっかり皆さんの支援で人数が集まりました。

優勝は、初キャプテン初優勝のあぶさんチーム。大事な社会人大会の前日に、飲み過ぎて行方不明になり、当日の朝、ご両親が本人を発見し、池田の五月山体育館に連行してくれました。発見できなければ、人数不足で棄権ですから、ほんと感謝してますよ、お母ちゃん。これこそ、「One for all , all for one.」の鏡ですね。親のありがたみを、噛み締めなさいよ。

そして、彼の相棒は、二島のスーパースター…まだまだ、王子の域まで達していませんが、神鍋合宿で、素晴らしい一発芸を見せてくれました。お手本と書いて「おてもと」君…次世代に伝承して下さいね、この技を！

役者の揃った二島クラブ…ともかく、みんなで、楽しく盛り上がりましょう。歴史をここに綴って記録しておくと共に、また新たな気持ちで、楽しい第12回大会を皆さんの力で開催しましょう。

(ここまでは、平成18年10月下旬記)

長いものには、巻かれる？～第12回

びっくり、クリクリ、くりっくり！昨年社会人デビューした二島女子部は、10部優勝。22部の男子部もAB揃って、決勝リーグに進出。快進撃の「ふたしまバドミントンクラブ」ですが、この勢いで二島杯の開催です。

今回は、バドミントン界の世界的なルール変更であるラリーポイント制を採用。

「ルールわからんがな～！」なんて声も聞こえますが…大丈夫です。主催者含めてしっかり把握してる人は居ませんから、参加の皆さんで、新しいルールを勉強したいと思っています。テーマは、「長いものには～巻かれる？」

こんな案内で募集した今大会も大盛況。参加者60名、実り多き大会になりました。

中でも注目を集めたのが、お代官様が組んだタナカゲーム。対戦する4選手全てがタナカさん。おまけに主審もタナカさん。

「オンマイライト、タナカさん・タナカさん。オンマイレフト、タナカさん・タナカさん。

タナカさん、トゥサーブトゥ、タナカさん。ラブオール、プレイ！」で始まり、「頑張れ～タナカ！」と声援を送れば、全員が「ハイ！」

結果タナカさん組が勝利で、タナカゲームを制したタナカさんが居たゴリチームが、第12回大会優勝です。テーマを考えると、誰からも好かれるゴリちゃんの人気の秘訣は、『長いものに巻かれた』結果で、今回の優勝もそんな性格の現れかも知れませんね。

そして、本大会では、社会人チームへの入部希望者が2名。競技審判委員長のクラッシュ君に、前回大会より二島を気に入ってくれたシンサク君。また、ミキティアニキのマネージャーさんも入部してくれそうだし、来期の社会人大会が楽しみです。これって『長いものに巻かれた』結果・・・かもね？

さてと、お代官様は、次の大会に備えて、テーマを考えるとしますか。

平成19年3月31日記

門真市民プラザに進出～第13回

Come on!

いつものメンバーといつものシャトル・・・今回は、会場を今年5月に開設した門真市民プラザに移しての二島杯。ここは旧門真南高校跡地で市民総体開会式、ふるさと門真まつりも開催された地元のイチオシ・スポットです。コートも六面取れるので、募集人数は120名！いや100名・・・それは、参加表明いただける皆さん次第です。

テーマは“Come on!”

一人でも多くの皆さんが参加いただける事を願うと共に、この言葉の別の意味でもある「頑張れ！」「達成せよ！」という思いも込めて大募集！

主催者側抽選による10チームによるラリーポイント21点ゲーム(30点までデューズ2点差勝ち制度採用)5つの団体戦。対戦組合せは、指示書により決定します。順位決定基準は、いつもの二島ルール。午前2試合、午後3試合で完全決着まで。(変更可能性あり)

今回は、青年協会バドミントン部の全面的なバックアップを受けての開催。申し込みは、フルネームでお代官様又は会長まで。締め切りは、9月23日としますが、申込者が120名になった時点で締切りとします。(もし、そうなれば12チーム対抗ですね)皆さん“Come on!”・・・そして、主催者側も“Come on!”

こんな案内で募集した第13回は、目標には少し足りませんでした。参加者91名の豪華版。9名構成の10チーム。他の大会と運動会が重なる中、テーマ通りバド好きの皆さんが集まってくれました。

今回は、広い会場に備えてスタッフマニュアルを作成し、早朝より二島スタッフ総出で大会を作り上げました。雨の中の駐車場整理に会場準備とキャプテンによる進行、そして参加いただいた皆さんのご協力が無事(?)時間内に終了です。チーム数が増えたら、順位決定基準を見直さなければ・・・などと反省しながらも、テキパキ動く二島スタッフと、大会を終えて笑顔で帰宅された皆さんに感謝です。



また、当日時間の制約で、共催いただいた皆さん(スポンサー)のことを紹介できませんでしたので、御礼と感謝の意を込めてここで、紹介させていただきます。参加賞は、あしながおじさんとアクロバット(土曜の朝の二島)より、図書カードは、ちくぜんさん。徳島賞(これ、「得しましょう!」と駄洒落で紹介する予定でしたが・・・残念)と下位チームへの小物と体育館提供は青年協会バドミントン部。楽しいことに賛同いただけるスポンサーの皆さんの協力で、大会もグレードアップできたと確信しています。

試合も、お代官様のお触書システムで、スムーズに、力と力の対戦や、技と技、女の意地からお笑いまで、多彩な組合せが見られたかと思っています。

優勝チームは大方の予想をはずして、ゴリチームが2連覇。きっと相手チームに、顔見せたのでしょよね。そりゃ、あの顔見せられたら、笑って力入りませんから。

また、少し自慢ですが、大会を終えて、会場の警備員さんに挨拶に行ったところ、「2007年5月開設以来、最も統率の取れた団体(大会)」という称賛を浴びました。さてさて、次はあるのやら、予定は立っていませんが、バド好きの皆さんの支援がある限り二島杯を続けていきたいと思っています。

その時まで・・・Come on!

平成19年9月30日記

デモクラシー～第14回

2008年オリンピックイヤー!! 北京に向けて、代表選手たちが、日本にたくさんのメダルをもたらしてくれる事を期待しましょう。マラソンは? 水泳は? ...そして、バドミントンのオグシオは?

今回のテーマは、北京での勝利を祈念して『Victory』(ヴィクトリー)

いつもの場所で、いつものシャトル、いつもの二島杯もヴィクトリー目指して頑張りましょう。勝利者には、オグシオからのプレゼントが捧げられるかも知れませんよ。

さてさて、今回は周辺で同じ形式の大会が続いているので、少しひねりを加えます。

題して「二島スクランブル～」

主催者側抽選の6チームによる21点ゲームの団体戦ではありますが、お昼を境に、チーム編成が変わります。午前は予選3試合、午後は決勝3試合でヴィクトリーを目指します。対戦組合せは、お触書。順位決定基準は、いつもの二島ルールを採用します。はてさて、どんな大会になるのやら? 募集人数は、二島小学校開催のため限定60名。



こんな案内で募集した第14回。

今回の目玉は、二島スクランブル。午前と午後でチームの半分が入れ替わるなんて事を思いついたのですが、メンバーの配置、皆さんに伝える方法、掲示物、キャプテンに渡す資料・・・と考える事が山積みで二島杯史上、最高に頭を悩ませた大会です。仮のチームを作って組み合わせや入れ替えをシュミレーションして、通勤電車でブツブツと独り言をつぶやきながら、諸問題を解決しました。

しかし、しっかりと計算されたメンバー表を仕上げた後に出てきたキャンセルに青息吐息。チーム力の均衡を考えた解決策は、デモクラシーすなわち民主主義であるという結論を導き出しました。

民主主義とは、「キャンセル部分の処理基準を話し合いとか多数決などという不公平な方法で解決する事なく、参加者の参加者による参加者のための方法で解決する事だ〜！」ということを発見しました。そして、これをルール化して、

「キャンセルまたは怪我による欠員の補充は天の声による。すなわちお代官様の指示を仰ぐ。」

・・・とお代官様によるデモクラシーで解決しました。

また、今回の最大の敵は「ワックス」・・・開催日が小学校の卒業式直後だった関係で床がツルツルで、雑巾・モップなどで拭き取っても滑る滑る・・・

踏ん張りが利かない中、試合は白熱。

キューティクルが飛び交い、ゴリ汁、タヌ汁、我慢汁まで飛んで、小学生からお爺ちゃん、初心者にプロフェッショナルと、参加の皆さんが一日羽根を打つ事で、歓声あり笑いありで、幸せな一日となりました。

そんな大会のVictoryはあぶさんチーム。これが次の社会人大会に続くVictoryだったら良いのね。また、大会個人賞に続き、二島MVPを発表。合宿での民宿破壊と社会人での活躍、就職祝いを含めて、メタボリック娘にこれを捧げました。

いずれにせよ、いつもながらよく動いてくれる二島スタッフあってこそできる大会ですが、お代官様個人的に最も思い入れの深い大会となりました。この大会は、二島クラブの勝利・・・Victoryだったのでしょうね。

平成20年3月24日記

フェスティバル～第15回

夏祭り、秋祭り。竿燈、だんじり、阿波踊りからリオのカーニバルまで。

本来、祭りは護国豊穰を願う神事ですが、祭囃子にウキウキ、人々の笑顔が満ち溢れる楽しい日でもあります。ふるさと門真にも昭和48年から35回も続いた祭がありました。行政の都合により今年中止。「そんな門真にフェスティバルを〜！」という訳で・・・

今回のテーマは“Festival～二島祭”

昨年、最後の門真祭が行われた門真市民プラザを羽根打つ皆さんの喜びで満たしたい！「ふるさとの祭りは、二島杯！」なんて言葉が定着することを祈念して開催です。

こんな案内で120名を募集した第15回。

今回は、最終的に申し込みいただいた参加者84名を12チームに振り分けての開催です。キャプテンは二島クラブ総動員で、福岡から「ちくぜんさん」、上海から「エディーさん」に、ポリネシアのゴリラまでが、この大会のために帰ってきてくれて、テーマ通りのフェスティバルとなりました。

お代官様は先日、来年の8月にルミエールホールで開催する出演者を市民から公募する「門真市民ミュージカル」の実行委員に就任したので、この二島杯は舞台人として作品を仕上げる事に決めました。

今回のお代官様は演出家、東にちくぜんさん、西にコウモン様という二人の舞台監督を配置してスムーズな進行に努めました。演出の考える事を舞監が的確にキャプテンに伝え、参加の皆さんと楽しく羽根を打つ喜びを味わう時間を共有する・・・という理想的な姿で「フェスティバル」という作品が完成しました。



今回の優勝は、チームマッスル。キャプテンは、アニマルリョーコで、お代官様が所属するチームは優勝しないというジンクスを見事に打ち破って賞品のラケットを持ち帰りました。この予想外の展開に、「団体戦は個人の力でなく、団結力さ！」などと自画自賛してしまいました。

また、MVPは初期の二島杯を支えたユーリの手に。

けれど本当のMVPは、早朝より集合して大会準備を手伝ってくれた二島スタッフ～特に舞監の二人に捧げたいですね。

次回も頑張りますか？

第16回大会のテーマは・・・「リズム」

市民ミュージカルに負けない作品を参加の皆さんで、作り上げましょう！



また、本大会で募集しました『越後屋火災見舞金』へのご協力ありがとうございました。長年に渡り、大会を作り上げてきた相棒の越後屋になり替わりまして、ご賛同いただきました皆様にお礼申し上げます。

そして、我らがガット張りの店ネットインの早期完全復活と、衣料と生活用品が充実し、一日も早く今まで同様の生活に戻れる事をお祈りしています。

リズム～第16回

「商売繁盛で笹持って来い！」なんて声が聞こえると、新年の大阪の街が本格的に活気づきます。二島クラブもこれより始動。『生涯スポーツでラケット持って来い！』ってなリズムで、第16回二島杯の開催です。

いつものメンバー、いつものシャトル。主催者側抽選の12チームによるラリーポイント21点ゲーム(30点までデュース2点差勝ち制度採用)4～5つの団体戦。対戦組合せは、指示書により決定します。順位決定基準は、いつもの二島ルール。午前2試合、午後3試合で完全決着まで。(変更可能性あり)

今回のテーマは、リズム。普段の生活から趣味・スポーツに至るまで、バドミントンでも、サーブ・レシーブにフットワークとリズムを忘れちゃいけないことがいっぱいです。しかも、お代官様は8月30日ルミエールホールにて開催の門真市民ミュージカルの実行委員に就任して、やる気マンマン、リズム感・などと語っています。

「それでは皆様お手を拝借！打ちまひょ！」『パン』

「もひとつせい！」『パン、パン』

「祝うて三度！」『パパン、パン』

そんなリズムで参加者大募集した結果、史上最大の大会となりました。今回は、鶴見のアネキだけでなく、北摂地区を本拠とする羽夢★Sクラブの協力によりまして、主催者ビックリの参加者総数119名。



優勝は、競技審判委員長として大会冒頭でルール説明をし、いつも駐車場係に荷物搬入から清掃まで、大会を陰で支えてくれること8年『ジャンピングスマッシュのお兄さん』などと呼ばれて、社会人大会ではパラッチが下から携帯カメラを構える人気者、キューティクル君の下へ。大会のテーマ通りチームメイトとのリズムが合ってキャプテンとして初優勝という結果が伴ったのでしよう。



当日は、体育館を半分に分けて西側を二島のランドマークとして愛されるコウモン様、東側を福岡から来場のえちぜんさんにお任せして、信頼のおける12名をキャプテンに指名しました。会計・受付・駐車場・準備とテキパキ動くスタッフに囲まれて、お代官様の仕事は、参加者の皆さんとのおし

やべりと場内の試合を観戦して、素晴らしいプレーには拍手、面白いプレーにはツッコミを入れるだけで、気楽に大会を楽しんでいました。

会長は「これだけ参加者が多くなると目が行き届かない。」などと言っていましたが、楽しい一日にご満悦。自画自賛ではありますが、史上最高の大会が出来上がったと思っています。



主催者として一番うれしいのは、二島杯を楽しんでくれた皆さんの笑顔、そして大会終了後にいただくお礼の言葉やメールですね。今回は、そんな感謝のメールを3通ほど紹介させていただきたいと思います。なお、絵文字・デコ文字は割愛させていただきました。

最初は、初心者で大会参加が初めてのお母さん。

「初めて二島杯に参加させていただいて 人の多さにビックリしましたがとても楽しくてアッ！！という間に1日が終わった感じです。

とにかく『ありがとう！！』の気持ちでいっぱいです！！本当に、ありがとうございました！！」

続いては、最近初心者を脱出したカノジョ。

「二島杯も打ち上げもすっごく楽しかったです。有り難うございました。

私の中の課題はもっとも一つと頑張っって上手くなることですが、何よりも楽しいバドミントンが出来る事が一番嬉しいです！今日も1日有り難うございました！」

続いては、ご夫婦でバドミントンを楽しまれている奥さん。

「昨日はありがとうございました。そして色々とお疲れ様でした。最初は緊張でしたが試合するたび緊張もほぐれとても楽しかったです。行ったメンバーもかなりの興奮で、また次回是非とも参加したいと思っております。また二島クラブの練習にもお邪魔させてもらいたいです。

今年はバドミントンの出だしが好調なんで、この波に乗ってレベルアップ出来たらと思っております。本当にありがとうございました！

今日は二日酔いと全身筋肉痛ですが、昨日は楽しい1日でした。」

こんな皆様の声に支えられまして、二島スタッフが健在で同じ方向を向いている限り、こんな大会を続けていきたいと思っています。

最後は、皆さんから、エースと呼ばれているスタッフからのメールです。

「今日は～ちょっとはしゃぎすぎました！また、金曜日よろしく願います！」

最高じゃないですか、自分も楽しんで、皆さんにも楽しんでもらえるなんて・・・そんな気持ちで、羽根を打ち続けたいですね。

第16回二島杯・・・余は満足じゃ！



平成21年3月10日記

大盛況御礼～第17回

「オンマイライト、ニ島クラブ、レプレゼンティッド・バイ、黄門さん・越前さん」

これは、団体戦の場合のコールの仕方ですが、「レプレゼント」って何じゃらほい？

聞き慣れん言葉やし、先日の社会人大会で主審した時も見事にセリフを噛んでしもたがな！

そんな悔しさと反省の意味を込めて、今回のテーマはrepresent(レプレゼント)

「represent」とは、贈り物とか現在を意味する“present”に、繰り返しの意味を持つ接頭辞“re”を乗せて、「表す・描写する・意味する・代表する・上演する」なんて言葉に訳します。そんなウンチクは正しい？ 正しくない？

それは別として、今回は、主審のコールで使われる聞きなれない言葉の“represent”をテーマとし、この言葉を参加の皆さんに覚えていただくとともに、楽しい大会を上演し、楽しい一日を皆さんに繰り返し贈るつもりです。



そんな案内で募集した第17回は、参加者総数120名。

聞きなれないテーマだったにも関わらず史上最高の出来上がりだったと確信しています。

今回の敵はインフルエンザ。コーヒーの紙フィルターみたいなマスクブームを過ぎたはずなのに、参加者の中にもこれが原因で欠場した人も、ちらほら。娘が感染し、安全を考えてキャンセルしたお母さん。

「娘はWiiリゾートでチャンバラゲームして元気だけど、病気・・・」

なんて言っていましたが、このウィルスはそれほど強力なんでしょうか？



いつも手回しの良い会長がアルコール洗浄液を手配し、お代官様夫婦は、大会前日、地元三ツ島神社に大会成功と皆さんの健康を祈願。しかしながら、チーム編成を仕上げた後から出てくるキャンセルに青息吐息。開会式寸前まで対策に追われました。

けれども、三ツ島神社の神木・薫蓋樟(くんがいしょう)の霊力と、鶴見のアネキの広い人脈力と、二島スタッフの地道な努力により、当初計画の10名構成12チームが完成しました。

熱戦の連続で6チーム総当たりの予選も最終戦になるまで順位がわかりません。

イーストサイドは、3勝2敗が3チームで、該当チーム間の関係により「チームえちぜん」が優勝戦に。ウエストサイドも、3勝2敗が4チームで、該当チームの関係も横並びで、学歴勝負に。二島ルールで学歴とは、チーム内の門真の学校卒業生数を言いますが、今回の参加者の中には、門真なみはや高校卒業生7名を配置したはずが、この4チームの中に該当者なしで、ルールに従い、キャプテンの年齢勝負に。この中に女性キャプテンが居なかったのが救いですが、「チームピッコロ」が優勝戦に。



主催者として、チーム力の均衡を考えて編成を考えますが、ここまで均衡するのは計算外でした。決勝の結果、史上最大の大会を征したのは「チームえちぜん」



キャプテンのえちぜんさんは、この日の為に、赴任中の博多から銘菓「博多通りもん」を手土産に來場。おまけにイーストサイドディレクターとして早朝から打上げに至るまでこの大会を支えてくれま

した。

ウエストサイドディレクターのコウモンさんも夜勤の合間をぬって大会進行に努めてくれました。

二島杯は、レプレゼンティド・バイ、二島スタッフ。

スタッフと楽しく羽根を打ちたいと願う参加者の皆さんの気持ちが一体化して、楽しく一日を過ごすことができました。

お代官様としましては、次も開催・・・けれど、今回以上のものができるか不安ですから、皆さんの知恵と力をお貸し下さいね。

平成21年9月23日記

伝承～第18回

前回大会は、本当に盛り上がりました。参加の皆さんと、二島スタッフの心が一つとなって、最高の出来上がりだったと確信しています。お代官様として、最高の作品を作り上げてしまったので、今度は「二島に来れば必ず楽しい事が待っている。永遠に二島はパラダイス！」なんて、ご参加の皆さんに言ってもらいたいので、二島ヌーボー！次世代に大会を預けたいと思います。

そんな案内で募集した18回のテーマは「伝承」・・・年2回のペースで続けてきた大会も足掛け10年。キャンセル待ちまで出たの大盛況で、120名参加。今回参加された皆さんは選ばれし「バド好き」かも知れません。スタッフもこちらが油断していたら期待以上の働きをしてくれるし、コウモン様・えちぜんさんの手慣れたさばきに、本部席の後輩ミュキも先輩を支えてくれたし、進行台本もできて、キューティクル君の爽やかな司会進行も抜群。プレーに応援に、来場の皆さんも二島杯の趣旨をわかってくれて、楽しもうってオーラが各コートから出まくって、またまた最高の大会が完成したと思っています。



さて、今回の問題は・・・「わて」

実は、大会前々日の金曜の夜の市民プラザの練習で体育館の仕切り用のグリーンのネットを踏んで転倒。右肩を強打してしまいました。ドタキャン厳禁と豪語している手前上、引っ込みがつかなくなり、最悪サウスポー参加を決意し、自らのランクを落として、ほぼ完成していたチーム編成に手を加え、金曜・土曜と左手練習に励んでみました。

近所の整骨医からは「やめとくべき。」と言われましたが、「ガムテープ貼り付けてでも、一日だけ試合できるようにして下さい。」とお願いして当日を迎えました。対戦相手には本当に失礼だと反省していますが、自分にできる最高の状況として、右手に負荷が掛からないドロップと緩いドライブと左

スマッシュで試合に参加。ペアの人の助けが大きいのですが、個人的に全勝。しかもチーム優勝までしてしまいました。

テープの力？それとも、意志力？奇跡？

「負傷したほうが強いがな〜！」などと突っ込まない。主催者として、チーム編成をした本人が優勝するってのは、あまりいただけませんが、コートに入った限りは、楽しく勝ちたいと思うのがホンネですからね。



今回の決勝は、ウエストサイドからは外部の人でありながら、二島杯の精神をわかってくれて、いつもキャプテンを引き受けてくれる尊敬すべき人・ピッコロさんのチーム。イーストサイドからは、大会の進行役で、お代官様が最も信頼する・えちぜんさんのチーム。皮肉なもので、前回大会と全く同じ顔合わせとなっていました。

優勝の行方は、西はピッコロ&和歌山ヒッピーといういつも練習を一緒にしている師弟関係チーム、東はディサパーサーサトシ&ホモイチといういつも一緒に仕事をしている同僚チームの対決で決まります。一つのミスが命取りの一進一退の攻防で、両チームの応援も白熱します。結果、この日一番の熱戦を制したのは、ピッコロ組で歓喜の初優勝。二島スピリットを伝承してくれたチームがチャンピオンとなりました。

優勝チームや二島スタッフだけでなく、参加いただいた皆さんにも、この大会が目指していることを伝承できたら幸せだと思っています。そんなこんなで、伝承は叶ったのでしょうか？



さてさて、次はどんなテーマで開催しましょう？大会直前に怪我をして迷惑をかけた「わて」にパワーを下さい。そんなパワーを、伝承したいお代官様でした。

平成22年3月2日記

ディスカバー～第19回

「ディスカバージャパン～ひかりは西へ」なんて歌い文句で新幹線が岡山まで延びた頃、誰もがこの超特急に乗って旅立ちたくなりました。

二島も西へと旅立ちましょう！今回の大会は初めて、門真西高校・体育館を使用する事になりました。行政の都合上と言えばそれまでですが、新しい場所で何かを発見できるかもという期待を込めての開催です。今回、会場都合により駐車場が使用できませんので、京阪古川橋駅からバスに乗って試験場前で降りて徒歩、または「くら寿し」前のコインパーキングに駐車するか、準備運動を兼ねて自転車か徒歩・・・ともかく会場に来る方法も発見して下さい。



こんな案内で募集した第19回大会のテーマは「ディスカバー」

今回は、会場を指定され、駐車場使用は禁止、使用時間は制限され、鍵の受渡し日時まで決められて四苦八苦。当日もネットが無い、カーテンが開けられない、バスケットボールのリングが出たまま、ポールの高さがおかしい・・・と難題山積みで、神々が二島杯に与えた試練ゆえ、右の耳に息を吹きかけられたら、左の耳を出して、頑張るしか無い状況で、スタッフ総出で問題解決に努めました。駐車場も大会寸前にネネ母の努力によって周辺に確保できましたが、当日は駐車場を捜して道に迷う人が続出で、こちらも大変な状況でした。



会場準備が整えば、えちぜんさん・オッキー君の両ディレクターが中心となって、手馴れた進行で、開会式から予選、決勝、表彰式まで、見事時間内にスケジュール通り大会を納めてくれました。時間の都合上、いつもの開会式での軽快なおしゃべりをカットされたお代官様は、少し欲求不満ですが、スタッフは喜んでいましたね。

悪条件の中、参加いただいたのは98名。今回はサイドを南北に分けて、6チーム総当りで順位を

決めて、両サイド1位同士のチームのキャプテン対決で最終順位を決定します。北はシャチョー、南はスコッチが勝ち進む。キャプテン対決を征して優勝したのは、最初から大会を支えてくれている越後屋の一番弟子のスコッチ君がキャプテンを務めるチームで、団結力と集中力で優勝賞品のラケットを持ち帰りました。



また、今回の特記事項は、久々の大所帯での打ち上げ。

定員24名の居酒屋に30人以上詰めこんでの大宴会。「誰でもいい」って理由で選んだ競技審判委員長のパッパーラ君と、男性にしか興味を示さないホモイチが大声で騒ぎ、越後屋はヤホへと飲んで、スマッシュひとしゅんの真っ白なお肌が真っ赤に染まり、オッキーファミリーは酔っ払いの世話を焼いてくれるし、大会に来れなかったスタッフも集まり、大会を支えてくれる提携サークルの人も含めて凄い状況になりました。



実はこの店、元気モンの姉さんと男前シマンチュウの天才料理人のコンビで、いつも美味しい料理を食べさせてくれるお代官様イチ押しの居酒屋で、「ええ店知ってるやろ！この店できたから、がんこ門真店が、ライフ前から撤退したんやぞ！」と自慢して大会テーマ通り、打ち上げまでが「ディスカバー」・・・というストーリーでまとめるつもりが、飲んで食うて、盛り上がって・・・つつい、忘れてしまいました。

ともかく、今回の大会も大盛況に終わり、参加の皆さんも、何かをディスカバーしてくれたかな～？なんて思っております。次も楽しい事やりたいね。

FIN(フィナーレ)～第20回

「お楽しみいただけましたか？」

これは、大会の閉会式で必ず皆さんに投げかけてきたセリフです。大会である限りは、勝ち負けはつきものですが、二島杯は1日楽しく羽根を打った人が勝ちだと思っています。楽しく羽根を打って楽しく勝てたら幸福だと思いませんか。負けても実力が伯仲している人と対戦して楽しくやられるのもまた、幸福だと思いませんか。そんな思いで続けてきた大会も、最後になりました。

今回のテーマはFIN(ファン)・・・フランス映画のエンドロールで出てくる終わりを意味します。英語でもfinish、finalなどと綴れますが、皆さんの支持で年間2回のペースで続いた大会も今回で終了とします。行政との兼合いで確実に体育館を押さえられなくなった今、この大会を継続できる見通しが立たないので、ひとまず今回でピリオドを打つことにしました・・・という案内で元旦から募集を掛けたところ、主催者びっくりの勢いで定員の120名に達しました。キャンセルや追加などもありましたが、手狭な体育館で和気藹々とした中、熱戦が繰り広げられました。



今回の優勝は、昨年12月初旬に右手小指の骨にヒビが入って、ほとんどラケットを握ってなかった「スマッシュひとし君」のチーム。

ウエストサイドは、実業団で戦っているツワモノや、社会人のエースクラスの実力者が白熱した戦いを繰り広げ、最後は「ホモイチ」と「カントク」の全勝チーム対決に。

イーストサイドは3勝2敗のチームが4つという大混戦。二島ルールにより「ひとし」が決勝に駒を進めて、「ホモイチ」との熱戦を征しフィナーレを飾りました。

「ひとしキャプテン、ホントに手の骨にヒビ入ってたの？」

なんて声が飛び交いましたが、お代官様としましては、二島小学校の体育館に人が集まらず閑古鳥が鳴いていた頃に、共に練習会を支えてくれた好敵手(二島名物スマッシュ合戦の相手)に優勝賞品のラケットが行き渡ったことは、非常に喜ばしいことだと思っています。また、早く完治して、そのラケットでスマッシュを打ってもらって、いつもの風景を復活させたいと願っています。



共同プロデューサーの越後屋さんは、悪どいプレーで対戦相手を翻弄し、えちぜんさん・コウモン様という絶対に信用できる両サイドディレクターの仕切りでスムーズに進行し、会場確保や設営、受付、会計と、舞台でいうところの裏方の要・制作という立場で苦勞した裏代官に、早朝より協力してくれたスタッフの皆さんと、楽しく一日を過ごしたいって気持ちでご参加いただいたバド好きの皆さんのおかげで、最後にして最高の大会が仕上がりました。ホント、ありがとうございました。



さてさて、今回の問題はミスジャッジ。ドタキャン対策でギリギリにメンバー表を仕上げたところ、女性で初心者が申込登録されていた人が実は男性。申込みの窓口をしてくれた人が間違っって登録…って責任持って届けて下さいよ。

続いて、線審のミスジャッジ。今回の会場である門真なみはや高校の体育館が狭く、線審の位置に椅子が置けないし、荷物を置くスペースも無い状況でジャッジをしていただきましたが、明らかなミスジャッジに直面して試合の流れが変わってしまう。まあ、取った会場がミスジャッジだったと言われたらそれまでですが、お代官様として一度は、出身高校の体育館で大会を開催して凱旋帰国したいと思っていましたし、行政との兼合上、この会場を押さえてだけでもありがたいことですからね。とにかく、線審をする人はおメメをパッチリ開いて集中して下さい。



続いては、主催者側のミスジャッジ。ウエストサイドの順位は明らかでしたが、イーストサイドは混戦で、実は発表した順位がミスジャッジだったのです。けれども、証拠となる紙は破棄しましたし、4チームの勝ち数が同じ場合は、お代官様の決定、すなわち天の声によるって事にルール変更する方法もありますが、終了時間を気にしながら集計していた上、作業を見ていたキャプテンもスタッフも誰も気付かなかった事ですから、順位についての変更はありません。

ただ、このミスジャッジが無ければ、皆さんが手にした賞品が変わっていたのかも考えると、主催者として申し訳ないことをしたと反省しております。



思うに、最大のミスジャッジは、この大会を最終回と位置づけてしまったこと・・・ですかね？

バド好きが一同に会して笑顔で楽しく一日を過ごせる二島杯は、規模を縮小してでも続けなければなりませんよね・・・

現在のルールでは、主審はミスジャッジを修正することができます。仮に線審が「アウト！」とコールしても、主審がこれをミスジャッジと判断したら、「コレクション・イン！」と判定を覆すことができます。

「FIN」今回は最後の二島杯・・・主審、いや主催者として判定を下します。

「Correction To Be Continued」・・・続けましょう。

どんな形になるかは、わかりませんが、可能な限り、続けたいと思っていますので、ご支援よろしくお願いたします。

平成23年3月1日記

Back

[戻る](#)
